

 みなみみのわ

議会だより

No. **153**
2026.5.1
発行

中学生議会の提案から実現!



まっくんおにぎりケース誕生 (非売品)

詳細は8ページ



一般質問動画 配信中

QRコードから各議員の一般質問動画が観られます。

インターネット村ホームページ→村議会→本会議録画中継→定例会



3月定例会・臨時会	p2~3
まっくんバス等見直し特別委員会	p4~5
議会活動	p6
基本条例検証結果	p7
中学生議会・若者議会で実現	p8
一般質問	p9~15
キラキラ村の仲間たち (わくわくクラブ)	p16~17
モニターの声	p18

まっくんバス見直しのために予算修正案を可決!!

2/26~3/13

令和8年3月定例会


(議案名はわかりやすく簡略表記しています)

条 例	賛成	反対	結果
議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例 ▶ 国家公務員の旅費の改正に準じた特別職と議員の旅費の改正	8	0	可決
職員の旅費に関する条例 ▶ 国家公務員の旅費の改正に準じた職員の旅費の改正	8	0	可決
一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例 ▶ 人事院勧告に基づく通勤手当の改正	8	0	可決
消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例 ▶ 補償基礎額の加算額の改定	8	0	可決
公共下水道条例の一部を改正する条例 ▶ 災害時に排水設備工事を円滑に実施するための改正	8	0	可決
村営水道条例の一部を改正する条例 ▶ 災害時に給水装置工事を円滑に実施するための改正	8	0	可決
介護保険条例の一部を改正する条例 ▶ 介護保険法施行令の改正に伴う改正	8	0	可決
会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例 ▶ 人事院勧告に基づく期末勤勉手当及び通勤手当の改正	8	0	可決
令和7年度補正予算	賛成	反対	結果
一般会計補正予算(第12号)	8	0	可決
一般会計補正予算(第13号) ● 予算案に賛成(唐澤)ふるさと納税の不適切事案は早期から確認する必要があった。	8	0	可決
介護保険事業特別会計補正予算(第4号)	8	0	可決
国民健康保険事業特別会計補正予算(第3号)	8	0	可決
後期高齢者医療特別会計補正予算(第3号)	8	0	可決
水道事業会計補正予算(第4号)	8	0	可決
下水道事業会計補正予算(第4号)	8	0	可決
請願・陳情	賛成	反対	結果
「最低賃金法の改正と中小企業等支援の拡充を求める意見書」の採択を求める陳情 ▶ 総務経済常任委員会是不採択 ● 陳情に賛成(三澤)最低生計費は日本全国どこに住んでも同じ1600円/時を越えている。全国一律の最低賃金で経済の好循環をつくる。	2 (三澤) (山崎)	6	不採択
消炎鎮痛剤や抗アレルギー薬など、薬の追加負担を行わないことを求める陳情 ▶ 福祉教育常任委員会は採択	7	1 (太田)	採択  意見書



定例会最終日の動画を
こちらからご覧いただけます

3月定例会は、条例・補正予算はすべて可決。令和8年度一般会計予算を一部修正可決し、その他予算は原案どおり可決しました。陳情は2件が採択、1件は不採択となりました。

請願・陳情	賛成	反対	結果
<p>高額療養費制度の自己負担上限額の引き上げをしないことを求める陳情</p> <p>▶福祉教育常任委員会は採択</p> <p>●陳情に賛成(百瀬)改正医療法では高齢化の進展を見据えて外来・在宅医療に力を入れた医療提供体制の構築が掲げられている。逆行する考えである。</p> <p>●陳情に賛成(三澤)高額療養費制度は、患者の負担を軽減し、医療を保障するセーフティネットである。保険料120円の軽減と命を引き換えにはできない。</p> <p>●陳情に反対(太田)増大し続ける公費や社会保険料(現役世代の負担)の伸びを抑制する制度改革の目的を軽視する陳情であり、不採択とすることが妥当。</p>	6	2 (西森) (太田)	採択  意見書
令和8年度予算	賛成	反対	結果
修正議決した部分を除く一般会計予算	8	0	可決
<p>一般会計予算に対する修正動議(提出者：百瀬)</p> <p>※修正内容はP4予算特別委員会を参照</p> <p>●修正動議に賛成</p> <p>(西森)タクシー利用料支払いシステムは再検討が必要。</p> <p>(三澤)高校生の通学に特化したまっくんバス運行は当事者アンケートもなく決められた。朝夕2便しかない公共交通はありえない。見直しを。</p> <p>(太田)まっくんバス事業の実効性を確認するための指標・目標が曖昧で、効果が検証できないため修正案に賛成する。</p> <p>(唐澤)通学に特化したまっくんバス運行は賛成だが、今後住民の利便性を図っていく必要がある。</p>	8	0	可決
介護保険事業特別会計予算	8	0	可決
国民健康保険事業特別会計予算	8	0	可決
後期高齢者医療特別会計予算	8	0	可決
水道事業会計予算	8	0	可決
下水道事業会計予算	8	0	可決

2/2

令和8年第2回臨時会

(議案名はわかりやすく簡略表記しています)

専決処分・補正予算ほか	賛成	反対	結果
<p>専決処分事項の承認を求めることについて</p> <p>▶衆議院議員選挙に伴う一般会計補正予算(第10号)</p>	8	0	承認
一般会計補正予算(第11号)	8	0	可決
<p>工事請負契約の締結について(村民体育館の発電機設置と照明LED化)</p> <p>▶株式会社エイ・エム・シイ 57,365,000円</p>	8	0	可決
<p>財産の取得について(スクールバスの購入)</p> <p>▶有限会社ギャランショップ伊北 11,110,000円</p>	8	0	可決
まっくんバス運行等公共交通の見直しに関する調査特別委員会の設置に関する決議	8	0	可決



3/5~6

予算特別委員会

3月5日・6日の2日間にわたり、令和8年度の一般会計予算、介護保険事業特別会計予算、国民健康保険事業特別会計予算、後期高齢者医療特別会計予算、水道事業会計予算および下水道事業会計予算について、事業内容を含め慎重に審査した。



審査中に出された質問を少し紹介

Q：ぐるっとタクシーの利用数が少なく、費用対効果が悪いが継続するのか？

A：費用対効果として悪い。公共交通協議会で意見を聞いて判断する。

Q：タクシー補助の改正内容は？

A：利用対象者の範囲を広げ、1回の利用可能枚数を2枚から3枚へと増やした。

Q：VC長野トライデントのスポンサーによる広告効果は？

A：選手のユニフォームへ名入れするなど、試合会場やイベントで村をPRできている。



※ 一般会計予算の修正内容

まっくんバス運行業務委託料を修正

「まっくんバス運行等公共交通の見直しに関する調査特別委員会」(P5参照)の調査を踏まえ、4月から変更される「まっくんバス」の新ルートについては、改善や再検討を行うための区切りを設ける必要があると判断した。このため、まっくんバス運行業務委託料(年間分) 2,980万円を、4か月分に相当する約993万円へ減額修正した。

タクシー利用料金支払いシステム構築料およびシステム利用料を修正

まっくんバスの新ルート導入に伴いタクシー券の発行枚数が増加する見込みであるが、利用実証が行われていない。また、導入予定のタクシー利用料金支払いシステム「DTaM」についても、他システムとの比較検討が不十分であると判断し、タクシー利用料金支払いシステム構築料およびシステム利用料に係る予算、合計約320万円を全額削除とした。



減額した予算は予備費へ充当

令和8年度の主な新事業と予算額

大芝の湯 リニューアル工事



9億5,790万円

南箕輪小南校舎 長寿命化工事



2億3,570万円

大芝高原 トイレ改修工事



2,000万円

脱炭素推進 補助金



1,500万円

南信工科短期大学 就学助成金



72万円

乳幼児用おむつ 用品購入補助



638万円

まっくんバス運行等公共交通の見直しに関する調査特別委員会〈中間報告〉

まっくんバスの新ルート詳細が1月の全員協議会で示されたことを受け、議会では2月臨時会において調査特別委員会を設置。村が提示した公共交通の見直しが適切であるか、2月12日から3月9日まで計5回の調査を実施した。



地域公共交通計画について

地域公共交通計画は交通法改正により努力義務とされ、補助金受給の要件ともなっている。法定協議会には村・県・運輸局・交通事業者・住民代表・道路管理者・交通管理者・福祉関係者・調査委託業者が参加したが、協議の内容にはいくつかの問題点が認められる。

主な問題点

- ◆協議会の議事録・資料を精査したところ、現ルートの評価・検討を行った形跡がなく、廃止を前提とした新ルート協議が進められていた。
- ◆まっくんバスの実際の利用者が協議メンバーに含まれておらず、協議メンバーによる現ルートへの乗車評価も行われていない。
- ◆アンケートの自由意見では「利用しやすい方法を求める声」が多く寄せられていたにもかかわらず、その声が計画に反映された経過は見受けられない。
- ◆サービス向上を含めた総合的な改善・充実と地域輸送資源の組み合わせの検討が不十分であり、計画策定が補助金申請目的に偏っている。
- ◆実行性のある評価指標に基づくPDCAサイクルの取り組みが欠如しており、村の実情に合った地域公共交通計画となっていない。

議会では今後もまっくんバスを含む公共交通のあり方について、村と協議を重ねつつ検討してまいります。

まっくんバスの新ルートについて

R5年度第2回地域公共交通会議(R5年12月19日)で示された方針が先行し、新ルートありきで協議が進められた経緯は否定できない。

議会対応における問題点

- ◆議会への説明はR6年12月の全員協議会での素々提示にとどまり、新ルートの詳細はR8年1月の全員協議会で初めて開示された。
- ◆その場で議員から反対意見が出たにもかかわらず、意見は考慮されなかった。
- ◆地域公共交通計画は議会承認を要しないが、住民代表たる議会へのていねいな説明は村政運営上、不可欠である。

新ルートの内容・代替措置における問題点

- ◆新ルートにより空白となる区域への対応としてタクシー券の拡充は一定評価できるが、まっくんバス利用者の移手段の補完には十分とは言えない。
- ◆協議会内で「タクシーの利用率が半分あれば良い」との発言があったが、誰もが利用しやすいしくみの構築と、さらなる拡充の検討が必要である。
- ◆R8年度予算特別委員会の審議で継続が判明したAIオンデマンドタクシー「ぐるっとタクシー」については、南部小通学区(南原・沢尻・神子柴の一部)に限定されたエリアのみが利用可能であり、村内他地域との格差およびタクシー券との重複は問題である。R6年度実績は、登録者71人・利用者約18人・年間利用回数211回で、村の負担金は約228万円であり、3年目に入った現在も利用率は低調である。
- ◆福祉移送サービスは利用者が限られるものの、評価できる施策である。

地域公共交通の今後のあり方

自治体の交通政策は、村民生活の質の向上と誰もが移動しやすい環境の整備を目的とするものであり、村の第6次総合計画においても「利用者ニーズを生かした利便性が高い誰もが使いやすいきめ細かな公共交通網の促進」が基本目標として掲げられている。公共交通は地域の実情によって向き不向きがあり、利用が少ない場合は交通手段が地域に適合していないケースが多い。地域公共交通会議は、ステークホルダー(利害関係者)による深い熟議の場であるべきであり、残すべき価値があるか、他の有効な手段はないか、効果的な交通手段は何かを真剣に議論することが求められる。



1/11 消防団出初式



村民センターで行われた出初式に出席。役場駐車場で行われた観閲式では、消防車両による行進とカラー放水を多くの村民が見守った。

1/21 議会運営研修会



松本市浅間温泉文化センターで開催された議会運営研修会では、議案審議の流れや修正動議について、理解を深めることができた。

1/15 福祉教育常任委員会 中川村歴史民俗資料館・伊那市創造館 視察

R7年11月にリニューアルオープンした中川村歴史民俗資料館の視察では、中川村の遺跡から出土した土器や石器、土偶などについて説明を受けた。館内には、農家の居間をそのまま再現した展示や、昭和時代に使用されていた生活用品を紹介するコーナーが設けられており、懐かしさを感じさせる展示内容となっていた。また、リニューアル工事に係る財源についても説明を受けた。伊那市創造館では、国の重要文化財に指定されている神子柴遺跡から出土した石器や、顔面付釣手形土器などの展示について説明を受けた。企画展「ある一家の十五年戦争 ～日中戦争から戦後まで、壮絶な戦いの記憶～」も見学し、当時の貴重な資料から、戦時中の暮らしや歴史に思いを馳せることができた。



2/8 議会でVC長野トライデンツ試合を応援 ※チケット代は私費

エア・ウォーターアリーナ松本(松本市総合体育館)で行われた、VC長野トライデンツ対東レアローズ静岡の試合を観戦した。

会場では、リズムの良い音楽や照明により、気持ちを高めながら観戦を楽しめる工夫がされていた。試合前にはスポンサーとして南箕輪村の名前が読み上げられ、会場の大型ビジョンでは村のPR動画も上映された。県内外から来る多くの観戦者に、南箕輪村を知ってもらう良い機会となっていた。試合は残念ながら0対3で敗れたが、会場が一体となって応援する楽しさを肌で感じる事ができた。ぜひ一度、試合会場に足を運び、この臨場感を体験していただきたい。



南箕輪議会基本条例の検証結果

南箕輪村議会は、H25年に制定した議会基本条例の検証を二年に一度行っています。村民の負託にこたえるべく、9人の議員が項目ごとに4段階の評価を行い、議会活動への決意を新たにしました。

評価一覧として、評価した点数を平均化したものを以下の表にまとめました。結果を踏まえて議会活動活性化への取り組みを検討し、次回検証においてより良い評価につながるよう努力してまいります。

R8年2月南箕輪村議会

評価一覧（議員が評価した点数の合計を評価人数で平均化したもの）	今回	前回 (R6年)
第1条(目的)議会活動の基本原則をうたう	A	B
第2条(議員の政治倫理)良心と責任感をうたう	B	B
第3条(議員の責務)議員としての役割を果たしているか	A	B
第4条(議員の活動原則)研修会等への参加、自己啓発など	A	A
2 村民へのわかりやすい説明を行っているか	A	B
3 言論の場として、議員間の自由な討議を行っているか	B	B
第5条(議会の責務)二元代表制のもと、政策提言や立案	A	B
2 行政の事務執行に対する監視	B	B
3 事務執行の公平性・効率性の審査・評価	B	B
第6条(議会の活動原則)村民の意思・意見を村政に反映	B	B
2 村民が議会の催す活動へ参加する機会をつくる	B	B
3 資質向上と議会活動活性化のための研修会開催	A	B
4 他自治体との交流と連携推進	A	B
5 オンライン会議の活用推進	A	B
第7条(村民との連携)村民との意見交換の場を設ける	A	B
2 請願、陳情などを政策提案にとらえ、誠実に処理する	A	A
第8条(情報公開)議会だより、ホームページなどで情報発信	A	B
第9条(議会事務局の機能強化)議会事務局の機能強化に努める	B	B
第10条(村長などとの関係)執行機関と緊張関係を保持	B	B
2 執行機関に説明、資料の提示を求める	B	B
第11条(村長などの反問権)議員の質疑・質問に反問できる	B	B
第12条(検証と見直し)この条例を常に検証	A	A
2 検証の結果、必要な場合は条例を見直し	A	A

A：概ねできている(4点)

B：ある程度できている(3点)

C：あまりできていない(2点)

D：まったくできていない(1点)

中学生議会と若者議会の要望で実現!

2024年中学生議会から誕生!



「炭を使ったポップな商品を」という声に応え、大芝高原ブラメシフェスで「すみっちゃパール」を使ったタピオカ風ドリンクを販売。当日は行列ができるほどの人気メニューとなりました。

2025年中学生議会の願いを実現!

「南箕輪村をPRするためにまっくんをデザインしたグッズを作って」という提案から、かわいいオリジナルおにぎりケースが完成し、中学3年生へプレゼントされました。



2024年若者議会の提言が政策に!

若者の声から生まれた「乳幼児おむつ購入助成事業」は、R8年度からの新事業として実現しました。



あなたの声が、村の未来を作ります。

若者議会2026 (7月開催予定) もどうぞ注目ください!

村民の声を聴く会

令和8年度も5月から8月にかけて村内12地区を議員が出向いて、みなさまのご意見をお聞きします。

開催日程 (予定)	5月	久保区・沢尻区・北原区・神子柴区
	6月	北殿区・塩ノ井区
	7月	南殿区・中込区・大芝区・南原区
	8月	大泉区・田畑区

※変更の可能性あり



南箕輪村議会に行ってみよう!

- どなたでも傍聴できます。(当日、氏名と住所を記入)
- 静かに傍聴してください。



傍聴席

南箕輪村議会を見に来てみませんか? 次の議会は **6月1日(月)** 開催予定

村の未来や日々の暮らしに関わる大切な話し合いが、議場で行われています。

※決定日時はホームページか議会事務局にお問い合わせください。



問 R6年度機構改革の目的と狙いは

答 子育て・福祉、防災分野の体制づくり(村長)



太田 篤己

問 R6年度機構改革の目的と狙い、職員の働き方改革や住民ニーズへの対応をどのように意識したか。

村長 目的は大きく三点である。第一に子育て分野では、妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援の実現である。第二に福祉分野では、長期に寄り添う支援を可能とする相談体制の構築である。第三に防災面では、激甚化する自然災害に対応するための危機管理体制の強化である。職員の働き方改革では、部門ごとに専門職を配置するなど専門性を発揮できる体制づくりを進めた。住民ニーズへの対応では、わかりやすい行政窓口となることを重視した。

問 危機管理課は防災力向上を目的に設置されたが、消防団員の減少など現場の人的資源が厳しい中で、防災関連部署の連携や広域消防との役割分担は適切に機能しているか。

村長 災害時の初動体制の整備や庁内各部署との調整、外部機関との連携など、災害対応の司令塔としての役割を担っている。関連部署間の連携や消防団、広域消防との役割分担についても、従来以上に整理・強化が図られている。

問 子育て支援係と健康推進係(母子保健)をこども館に集約し、こども課へ一本化したことで、相談件数の変化や保護者の反応はどうか。

村長 機構改革前後を比較すると、妊産婦や乳幼児に関する相談件数は30%以上増加しており、妊産婦に対するきめ細やかな支援が進んでいる。

こども課長 担当の保健師や栄養士が明確となり、気軽に相談できる環境が整った。窓口の一元化により、子育て支援や相談室への円滑な連携が可能となっている。



問 機構改革により、教育委員会事務局と村長部局(特に子育て支援、児童福祉)との連携はどうか。

教育長 こども館の同一フロアに配置されたことにより、支援が必要な家庭への対応について、こども課や福祉課相談係と学校教育係との検討会議や意思決定の迅速化が図られている。

問 機構改革後の業務運用を通じて見えてきた組織上のボトルネックや見直しが必要な点は何か。村長、教育長それぞれに問う。

村長 課題は三点ある。第一に手続きが庁舎・こども館・保健センターに分散し、職員移動や利用者負担が生じている点。第二に教育委員会事務局が二施設に分かれ、連携や決裁に支障がある点。現在、スポーツ係の新設も含め、組織配置の見直しを進めている。第三に相談対応でこどもと成人の区分が難しい事例が増加している点である。管理職による調整が重要であり、効率的でわかりやすい組織運営を目指す。

教育長 教育委員会事務局は、学校教育係・こども施設係がこども館、社会教育係が村民センターに分かれて配置され、施設分散によるデメリットはあるが、事業内容等も踏まえ一体化の可否を検討する。職員の工夫で連携を強化し、住民が利用しやすい環境づくりを重視する。あわせて、各係の役割や窓口の周知を進めていく。



西森 一博

問 集落支援員が自治会の課題に関われるか

答 課題に継続して取り組むことに期待(村長)



問 集落支援員が中立的な立場で長期的に関わり、自治会の課題解決に向けた話し合いの促進を積極的に担ってもらう考えはあるか。

村長 住民自治の観点から、自治会の課題解決に向けた話し合いは、区長をはじめとする区の役員が主体となって進めていくことを大切にしたい。集落支援員については、区の役員が1年任期で交代していく中で課題に継続して取り組むことが難しい点を補う役割を期待している。話し合いの促進においても、会議の司会を務めること、経過の整理と言語化、合意形成の支援など、有意義な役割があると捉えている。今後も地域が主体となり、必要に応じて行政が支援することを大切にしながら、地域の実情に応じた支援をしたい。

問 集落支援員が複数の地区をチームで活動させる体制を検討しているか。

村長 現時点ではチームで活動する検討は行っていない。R7年度から始まったばかりであり、まずは各区に1人ずつ集落支援員を配置できる体制を目指す。支援員同士の連携は重要であり、将来的には人口規模の小さい区を対象に、複数名体制でチームを組み広域的に支援する仕組みも1つの選択肢と考えている。

問 今後デジタル回覧板を進める場合、回覧の掲載作業を集落支援員が担う考えはあるか。

村長 デジタル回覧板の導入は第6次総合計画のデジタル化推進の方向性とも合致する。集落支援員は区長の事務補助などを行う補佐的な役割であり、区の合意のもとで掲載作業を行うことは想定内の範囲内と考えている。第6次総合計画の重点目標とする「協働のむらづくり」に沿って、地域の実情に応じた運用のあり方を検討したい。

地域資源のシェアとマッチング

問 各区にある防災資機材を可視化して、村全体でシェアできる仕組みを検討してはどうか。

村長 防災資機材を可視化し地区間で共有していく取り組みは、地域防災力を高める上で有効と認識している。特に発電機や投光機など比較的高額な資機材については、地区間での相互利用を図ることにより効率的な備えにつながる可能性がある。災害時に迅速に使用できる体制や運用方法など整理し、自主防災会の自主性を尊重しながら仕組みづくりを検討したい。

問 住民の困りごととお手伝いができることを結びつける地域マッチングを構築しては。

村長 住民の困りごととお手伝いできることを結びつける地域マッチングの仕組みは、地域の支え合いを進める上で有効な考え方と認識している。ただし、システムの運用には継続的なマンパワーも必要で、役場組織だけで構築運営することは容易ではない。さまざまな分野で人手や担い手が不足している状況であり、自治会や農業分野でも同様の課題がある。農業分野においては、副業形式で手の空いている人とのマッチングの検討を進めている。また移住してきた人や若い人が地域と関わるきっかけとしても有効。



農業マッチングで働くまっくん



問 高齢者や子育て世代の外出支援にベンチ設置を

答 R8年に役場や公民館に設置する(村長)



唐澤由江

問 高齢者や子育て世代の外出支援につながる「ひと休みできる環境づくり」として、ベンチを設置してはどうか。

村長 役場庁舎周辺では、高齢者や親子連れが散歩する姿が見られる。R8年度に役場バス停や保健センター付近にベンチを設置し、子育て世代も含め人と人がつながる居場所づくりを進めたい。また、各地域の公民館にもベンチの設置を検討する。

高齢者の見守りにエアタグの活用を

問 村における高齢者の行方不明者の状況は。

村長 長野県における認知症による行方不明者数はR6年に400件であり、R5年より233件増加している。当村では防災行政無線による搜索依頼がR6年に3件、R7年に2件あった。

問 GPS機能を持つエアタグを村で貸し出ししてはどうか。

村長 エアタグは本来、持ち物の紛失防止を目的としたものであり、人への使用には法的課題がある。在宅介護においてGPS機能付き発信機を利用する場合、日常生活自立度判定基準ランク2以上であれば、初期費用に対し上限5,000円の補助制度がある。地域包括支援センターやケアマネージャーへ相談してほしい。

生活を重視したごみ収集

問 村のごみ収集事業を入札制ではなく地区分担制にできないか。

村長 ごみ収集は随意契約により1業者と契約し実施している。地区割制とした場合、収集ルートや日程の見直しが必要となり、住民に混乱を招くおそれがある。現在の収集運搬体制が最も適切であると考えている。

女性目線での防災備蓄品の配備

問 必要物品に関するアンケート調査は実施したか。また、避難所での配備は十分か。

村長 アンケート調査は実施していない。備蓄品については、女性消防団員、防災士、赤十字奉仕団等の意見を踏まえ、女性用防災キットを含め、住民の声を反映しながら見直していく。

こどもの居場所づくりの工夫は

問 こども館や村民センターの雰囲気が変わったが、その目的と工夫はなにか。

教育長 放課後に中学生が気軽に立ち寄り、会話や学習ができる場を求める声を受け、新たな施設整備ではなく既存施設の工夫により対応した。こども館では研修室の仕切りを開放し、オープンスペースを確保するとともに、机の配置やパーティションにより小グループでも利用しやすい環境としている。また、電子ピアノの自動演奏や薪ストーブにより落ち着いた雰囲気を演出し、展示や防災コーナー、公民館サークルの発表の場としても活用している。さらに、図書館機能の補完として2階学習室を開放し、平日は午後8時、休日は午後5時まで利用可能としている。利用者は4か月で延べ200人に達し、中高生を中心に多くの住民の交流と成長の場となっている。



工夫されたこども館



百瀬輝和

問 ラウンドアバウトの導入は

答 大芝高原北西の5差路を検討(村長)



村長2期目の公約は

問 交差点改良およびラウンドアバウトの導入について問う。

村長 現時点では、大芝高原マレットゴルフ場北西に位置する5差路の交差点について、インター工業団地へ向かう道路の拡幅工事を予定している。このため、渋滞回避や事故防止、さらに災害時の機能確保の観点から、選択肢の一つとして検討しているところである。今後は課題の整理を進め、関係機関や地元、議員と協議のうえ、導入の可否を判断する考えである。期限はR8年度夏までに結論を出す予定である。



ラウンドアバウト検討中の大芝高原北西5差路

問 保育園における3歳児以上のご飯持参の廃止および副食費について問う。

村長 現在、未満児には全食を提供し、3歳児以上には行事食の際に村の特別栽培米「風の村米だより」の金芽米を提供している。ご飯持参の廃止は、現場から課題が挙げられており、意見をていねいに聞きながら一つ一つ整理している段階である。副食費は月額3,000円を徴収している。R元年10月の幼児教育・保育の無償化の際、国の公定価格4,400円のうち、村が1,400円を負担したことによるものである。その後、人件費の上昇や保育士の処遇改善等により、公定価格は4,900円となっているが、村は負担額

を1,900円に増やし、保護者負担を据え置いている。実際の給食費は、物価高騰の影響により食材費や燃料費が年々上昇しており、調理員の努力と工夫により対応しているが、3歳児以上の給食費は1食当たり平均約300円である。月20日で約6,000円となるため、現時点では副食費3,000円を維持する考えである。

問 厚労省の推奨プログラムおよびデータベースと連携した健康づくりの推進について問う。

村長 厚生労働省は健康づくりのための身体活動として、1日60分以上の歩行に加え、新たに週3回の筋力トレーニングを推奨している。村ではこれまで「てくてく教室」などによりウォーキングの普及に取り組んできたが、新たな指針を踏まえ、健康運動指導士による筋力トレーニング講座とストレッチ教室を、それぞれ月2回に拡充して開催している。また、「ちょっとがんばる筋トレ」講座や「リフレッシュストレッチ」講座を新たに開始した。R7年度は2月末までの11か月で延べ306人が参加し、多くの住民の実践的な生活習慣改善を支援している。この取り組みは第6次総合計画の重点目標である「健康と安心によりいきいきと暮らせる村づくり」に資するものであり、基本目標に直結するものである。今後はデータベースと連携した健康づくりをさらに推進していく。

問 太陽光発電補助金の実施に伴い、他の補助制度や要綱がわかりにくいのではないかと問う。

村長 現在、主な制度として住宅リフォーム補助金とゼロカーボン推進補助金の2種類がある。このほか住宅耐震補助金などもあり、わかりにくい面があることは認識している。今後は、住民にとってわかりやすく、利用しやすい制度となるよう工夫していく考えである。



問 中小規模農家に支援を

答 支援のあり方を検討していく(村長)



原 源次

問 農業経営は、数年来の資材高騰などにより厳しい状況にある。R6年度並みに引き続き支援ができないか。

村長 価格高騰などにより農業経営が厳しい状況にあることは村としても認識している。R7年度は農業者物価高騰対策補助金を実施している。米価の今後の見通しは不透明であり、産業全体のバランスの観点もある。今後は米価の動向や酪農など他の農業経営の状況も注視しながら、必要に応じて支援のあり方を検討していく考えである。

問 中小規模農家に対する農業機械導入の補助制度はできないか。

村長 R7年度から担い手農業者農業機械等導入補助金を実施している。これは地域の中心的な営農を担う認定農業者に対する支援策として位置づけているものである。中小規模農家への補助については、兼業農家など対象範囲が非常に広がる課題がある。現在実施している認定農業者向け補助金の状況や効果を検証し、対象者や補助内容、金額なども含め制度の拡充が可能かどうか、認定農業者から中小規模農家への対象拡大も含め前向きに検討していく。

環境美化

問 村道5号線の東屋周辺の花壇が整備されていないが、対応は。

村長 5号線は道路拡張の際、歩道の設置とあわせて植樹帯を整備し、ポケットパークを1か所設けたものである。当時はパーク内や植樹帯の管理を地元で依頼していたが、近年は地域での管理が難しくなっているため、現在は村が一部の管理を行っている。歩道整備とあわせて適切な維持管理に努めていく。

問 村道6号線に設置されている花壇が著しく

傷んでいる。早急に修理できないか。

村長 現在13区画を9団体等が管理している。整備から20年が経過し老朽化しており、「南箕輪花いっぱい推進協議会」においてR6年度に1区画、R7年度に2区画を修繕した。R8年度以降も順次修繕を進めていく予定だが、可能なものは前倒しも検討する。今後も推進協議会と連携しながら環境美化の推進に努めていく。



議員花壇

未満児保育

問 未満児の入園が増加しているが、保育状況は。

村長 入園率は0歳児35.3%、1歳児66.7%、2歳児79.3%で、全体では61.6%である。担当職員は60名で、このうち39名が保育士資格を有する。今後も保育士確保に努め、補助員と連携しながら、安心して預けられる保育環境の充実を図る。

県営住宅

問 浅間塚団地の入居状況と改修の要請は。

村長 昭和40~43年に建設された簡易耐火造平屋の公営住宅で、39戸のうちR7年2月時点で11世帯が入居している。現在は募集停止としており、将来的な廃止を予定しているため、住環境向上を目的とした大規模改修は行わないと聞いている。



山崎 文直

問 平地林の防火対策を進めては

答 消防団・広域消防とも協力して進めたい(村長)



問 全国的に山林火災が多発している。村内を見ると天竜川右岸の段丘沿いに神社林や区有林などが続いており、住宅地がすぐ近くまで迫る地域もある。神社関係者からも火災への心配の声が聞かれる。消火栓の設置状況と今後の計画は。

村長 段丘上は住宅地も多く、火災時の心配は大きい。村としては上水道消火栓、貯水槽、自然水利を組み合わせ対応している。R8年3月1日現在、村内の消防水利は消火栓が442基、防火水槽が104か所設置されている。このうち段丘沿いから飯田線までの範囲では、消火栓が198か所、防火水槽が53か所あり、村内消防水利のおよそ半数が配備されている。村の消防水利は原則として住宅地付近に設置してきたため、平地林付近には消防水利が設置されていない場所もあり、配水管がない地域も存在する。現在、消防団や広域消防とともに水利状況調査を進めている。消防団では林野火災に対する訓練も実施している。自然水利の状況を把握することは重要であり、各分団ではおおむね把握しているが、地元以外の団員では十分把握していない面もあるため、今後は本部を中心に、消防活動に利用できるか、道路幅員や取水のしやすさなどについて確認していく。西天竜幹線水路の西側では自然水利が限られているため、



神社林の消火栓

畑地灌漑施設^{かんがい}を災害時に活用できるよう協定を結んでいる。今後も平地林火災に対応できるよう努めていく。

危機管理課長 水利マップについては消防署においてデジタル化が進んでいるところである。

大芝高原の今後の整備計画は

問 大泉川の上流から取水し、大芝湖などへ引水している送水管は、設置後数十年が経過しているが、保全是大丈夫か。

村長 伊那市の工業団地造成に伴い、市道に埋設されていた約150メートルの部分について耐震化を実施した。日常の維持管理については、埋設箇所以外は定期的に点検を行っている。特に取水口については土日も含めて確認を行っており、必要に応じて泥上げ作業も実施している。その他の埋設区間についても、破損等が確認された場合に対応できるよう管材を備蓄している。引き続き維持管理に努めていく考えである。

問 埋設管が大芝高原に入り、大芝湖へ流れ込むまでの間に開渠部分がある。そこにはさまざまな小鳥が集まり、散策者の癒しの場所となっている。さらに良い環境とするため、川底の改修計画はあるか。

村長 開渠部分は大泉川から取水している水と湧き水などで構成されている。川底はコンクリート、壁面は石積みとなっている。ここに小鳥が集まり癒しの空間となっていることは大変意義のあることである。R8年度には大芝湖改修に向けた設計業務を計画している。これは大芝湖の浚渫^{しゅんせつ}だけでは持続的な水質改善が難しいことから、構造的な見直しも含め、流入量や滞留状況、植生などの研究を行う計画である。大芝高原を訪れる人がさらに増えるよう整備を進めていく考えである。



問 こども館の放課後児童クラブは

答 R9年度に南箕輪小学校に統一する(教育長)



三澤 澄子

問 こども館を本来のこども館として活用するため、放課後児童クラブを南箕輪小学校に集約する計画はあるか。

教育長 当初は、放課後児童クラブと子育て相談室、児童館の役割を一体化したこども館として整備した。多様化するニーズに応える多機能型施設とすることを踏まえ、放課後児童クラブをR9年度に南箕輪小学校へ統一する計画である。R8年度は小学校へ戻すための整備を行う。



こども館「にぎわい夢広場」

問 南箕輪小学校の日給食センターの活用計画は。

教育長 新たに多目的教室として活用するため、学年集会室、準備室、トイレ等を増改築する予定である。広めの中間教室を設けて昇降口を新設し、多目的に活用できる施設とする。

持続可能な自治会検討の課題

問 区のあり方を検討した経過は。また、広報配布やごみ収集の立ち会いを村で行った結果、委託費はどのように変わったのか。

村長 子育て世代の意見を取り入れ、時代に即した改善をガイドラインとしてまとめた。区に支払った行政委託費はR6年778万円、R7年365万円。新たに民間委託費が605万円となり、総額で約200万円増となった。

問 議会だより152号のモニターの声では、行政委託料が減額され区運営に支障をきたしており、本末転倒の改革ではないかとの指摘が

あった。改善策は。

村長 自治会のあり方検討会において、負担軽減を進め地域コミュニティの持続を図ってきた。今後も地域に出向いて説明を行う。委託料の減額は当時の区長会からの意見で決定した。区運営に支障の声もあり、R8年度は数字の根拠を含め区長会に計りながら考える。

単身入居者障がい者家賃補助と要綱見直し

問 R7年の要綱見直しで、婚姻後でも家賃補助が継続されることとなったが、村外からの転居の場合、補助を受けられないこととなった。そのようなケースは何件あったか。

村長 本施策はH24年に開始し、R7年に一部改正して要件を明確化した。R7年は21名が対象で新規は1名であった。予算は300万円であり、村で生まれ育った人の自立支援のためのセーフティーネットとして就労支援や相談支援も行う。村外からの転居者も就労支援を要件として支援できる。

福祉課長 R7年は4名が対象外となった。

村長2期目の政治姿勢

問 現職課長を含め多くの職員が退職する。多くの人材が失われることに対する考えは。

村長 早期退職者8名、管理職3名が退職する予定であり、中核職員が一度に退職することは組織にとって大きな損失である。やりがいと情熱を持って働ける職場環境を整えられなかった責任を感じている。今後は若手職員の育成や働きやすい職場環境づくりに努める。

問 その背景には村長の独断専行や自由に意見が言えない閉塞感があるのではないか。

村長 閉塞感があれば看過できない問題である。安心して働き、自由に意見を言える、より良い行政運営に努める。

きらきら村の仲間たち

NPO法人南箕輪
わくわくクラブ

R7年度から中学校部活における休日の地域展開が始まり、新体制となった「NPO法人南箕輪わくわくクラブ」を紹介します。



NPO法人南箕輪わくわくクラブは、地域子どもたちに多様なスポーツ・文化活動の機会を提供することを目的に活動している団体です。R7年4月からは、休日の部活動がわくわくクラブへ移行し、地域主体による新たな体制がスタートしました。わくわくクラブでは、地域人材の協力のもと、子どもたちの興味や関心に応じた活動を展開し、協調性や主体性の育成にも取り組んでいます。



クラブマネージャー
たきもり ゆう
瀧森 優さん

私はR3年に東京都八王子市から地域おこし協力隊として移住しました。任期中に資格取得をし、R7年度からわくわくクラブのマネージャーになりました。ダンスインストラクターをしたり、VC 長野トライデンツホームゲームの演出部門で少しだけ携わったりしています。

- **趣味は？** サウナです。サウナに行くために北信の方に行ったり県外に出たりもします。
- **好きな食べ物は？** チョコレートです。
- **好きな音楽は？** LE SSERAFIM(ルセラフィム)です。推しはKAZUHA(カズハ)です。
- **南箕輪村の好きなところは？**
場所へアクセスしやすいことと、天気が比較的落ち着いていることです。移住したての時は冷たくて乾燥した風にやられました。それもだんだん慣れてきました。

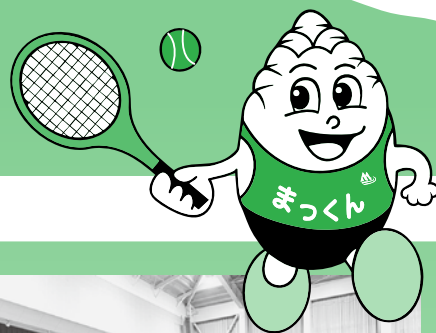


事務員
おさだ ふみな
長田 史奈さん

南箕輪村に移住する前は静岡県藤枝市にいました。結婚して南箕輪に来ました。南箕輪に来ての感想は、南アルプスと中央アルプスが絶景です。

- **趣味は？** ライブ参戦、バレーボール観戦。最近はかわいいシールを集めること！
- **好きな食べ物は？** えびです。
- **好きな音楽は？** Number_i (ナンバーアイ) です。推しは平野紫耀です。
- **南箕輪村の好きなところは？**
自然が豊かなところで、大芝の湯が好きです！

わくわくクラブってどんなところ？



多彩なプログラム

わくわくクラブの魅力は、その圧倒的な種目数にあります。競技志向から健康維持まで、自分に合ったスタイルが見つかります。

● ジュニア世代の育成

ミニバス、バレーボール、バドミントン、フェンシング、空手など、学校の枠を超えた仲間づくりと技術向上を支援。

● 多世代・一般向け教室

太極拳、リズムダンス、少林寺拳法など、運動習慣の定着をサポート。

● 文化・教養の充実

スポーツだけでなく、茶道、和太鼓、武術など、心の豊かさを育む活動も展開しています。



部活動の地域展開への取り組み

国が進める「部活動の地域展開」を、わくわくクラブがその受け皿として重要な役割を担っています。

● 専門指導員による指導

地域のリソースを活用し、質の高いスポーツ環境を維持。

● 生徒の選択肢を広げる

学校単位では維持が難しい種目も、クラブチーム化することで継続可能に。

● 地域で育てる

教員の負担軽減と、地域全体で子どもを育てる体制づくりを推進しています。

入会随時受付中！

わくわくクラブの活動は、会費だけでなく多くの村内企業・団体の「賛助金」によって支えられています。この官民一体となった協力体制が、南箕輪村のスポーツ・文化振興と健康増進活動を支える基盤となっています。

事務局は村民体育館1階にあります。お気軽にお立ち寄りください。

場所：南箕輪村4802-1 村民体育館内

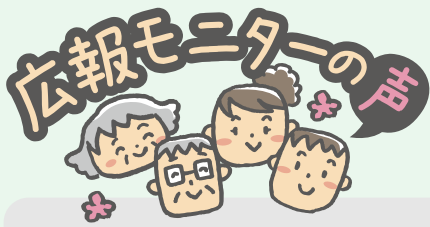
電話：0265-78-8313

HP： <https://wakuclub.sakura.ne.jp>



村民のみなさまへ

わくわくクラブは新体制になり約1年が経過します。R8年度は新しい協力隊の方にもお手伝いしていただきながら、村の文化・スポーツ活動を地域のみなさまと一緒に作れるようがんばります！



広報モニターのみなさん、2年間ありがとうございました! 次号からは新しいモニターのみなさんになります。

152号紙面への意見や感想

- 今までの中学生議会同様、次年度は7月に若者議会を開催する計画とありましたがとても良い事だと思います。更にいろいろの分野にも対象を広げられたら良いと思います。又、この議会のなかでの質問意見、要望は議会に関心を持ってもらうだけでなく、実際に取り上げた議題があったらきちんとアピールして、さらに関心を高めていければと思います。
- 今後も中学生議会や若者議会继续して開催し、その内容を広く村民に紹介していただくことを期待しております。
- 中学生議会の特集が非常に読みやすく村の未来を感じられる内容であったと思います。生徒の感想も豊富で臨場感がありました。
- 一般質問の要点が簡潔で、村長・教育長の回答が分かりやすいです。住民にとって関心の高いテーマが多いと思います。
- 視察報告が丁寧で、村の政策の背景が理解しやすいと思います。
- モニターの声をしっかり掲載し議会が住民の声を受け止めている姿勢が伝わると感じます。
- 専門用語の補足があると、より幅広い世代が読みやすくなると思います。(例：ユニバーサルフィールド・コンシェルジュ、木質バイオマス、農福連携など)
- 写真の説明をもう少し詳しくすると理解が深まるのではないのでしょうか。
- 「議会活動」のページは情報量が多いため、図や簡易マップがあると読みやすいと思います。
- 中学生議会・若者議会のような「住民参加型の取り組み」をもっと前面に出すと村全体の活気が伝わるのではないのでしょうか。
- 写真やイラストもあり、文字量もちょうどよく、とても読みやすいと思います。
- 「リテラシー教育」などの現代用語は、若い世代には通じるけれど、高齢者には、解説があった方がやさしいのでは。
- 毎回議員さんの様々な質問と答弁は楽しく読ませていただいています。その後どうなった

か…実現したもの、計画に入ったもの、予算がついたもの、そんな一覧があるとわかりやすいなと思います。

- 地区ごとに「事務局」を設置し、日常的な業務を担う仕組みをとの話であるが、①12区の仕事状況、内容についての把握すること、②集落支援員の勤務時間、どこまでの範囲の仕事をしてもらうのか、報酬についてはどうか等、集落支援員による区民への負担軽減による区への行政委託料はなるのか。細部にわたり検討していく必要があると思います。
- 中学生議会とても良いと思います。中学生ながら色々考えていてすごいなと思いました。介護・福祉分野の人材不足は深刻だと思います。支援が必要な高齢者は増えていくので、賃金upで介護士の方が増えることを願います。
- 今回は中学生議会が目を引きました。若者がこんなに村内に目を向け、自分たちで調べ考えや意見を議上で述べるができることは、将来有望で心強く感じました。若者議会と共に続けていってほしいと思います。

村への要望

- 農業問題：農業就労者の減少による耕作放棄地の増大、土地の集約化、機械化による農業法人化を強力に進める策が必要かと思います。
- 大芝荘が運営を停止して4年以上になります。是非以前の様な会合が出来る施設が村に一箇所ぐらいは最低ほしいですね。
- 仕事上県外から来る人と話をする機会がたくさんあります。その時に必ず聞かれるのが、大芝の湯、温泉のことです。その次に「家族に土産を買いたいけど何がある？」です。大芝の湯はどこかで情報として知っている人もいます。せっかくあんなにいい所なのに、もっと知ってほしいと思います。教えてあげた人が「とっても良かったよ」と喜んでくれ、リピーターになっています。大芝荘も何とかしたいです。今後期待します。

編集後記 世界中で紛争が起きており、原油価格をはじめ物価高もあり日本の経済にも大きな影響が出ています。平和を願うばかりです。議会アンケートでも中学生議会が好評でした。今年度は加えて若者議会も計画します。皆さんの声を村の行政に届けていきます。楽しみにしてください。

(山崎文直)



すべての
モニターの声



議会だより
バックナンバー